レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラスト －

米国マーケット・ストラテジー

米ドル建て受益証券 / 円建て受益証券

愛称：Curve & 4Days

ケイマン籍契約型公募外国株式投資信託（追加型）

本資料では、レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラスト －米国マーケット・ストラテジーを「本ファンド」ということがあります。また、本ファンドの米ドル建て受益証券を「本ファンド（米ドル建て）」、本ファンドの円建て受益証券を「本ファンド（円建て）」ということがあります。

投資信託のお申込みに際しては、投資信託説明書（交付目論見書）等をよくお読みになり、契約内容およびリスク・手数料等をご理解いただいたうえでお客さまご自身の判断と責任においてお取引ください。

＜SMBC信託銀行における投資信託取引に関する注意事項＞

- 投資信託は銀行預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。また、SMBC信託銀行で取扱う投資信託は金融商品仲介口座を通じた取扱いの場合を除き、投資者保護基金の対象ではありません。
- 投資信託は、元本・利回りの保証はありません。
- お申込みの際には、「外国証券取引口座約款」に基づき、外国証券取引口座を設定していただく必要があります。
- 米国税法上の米国人（米国市民、米国居住者またはグリーンカード保有者）は、居住・非居住にかかわらず投資信託の取引申込みができません。また、非居住者およびSMBC信託銀行への届出住所が日本国外のお客さまについても同様となります。

＜重要な注意事項＞

- 本資料は三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 本資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 本資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 本ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、本資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。

本ファンドの特徴

1 本ファンド（米ドル建て）は、担保付スワップ取引（以下、スワップ取引ということがあります。）を通じて米国マーケット・ストラテジー米ドル建て指数の損益を享受することに加えて、米国財務省短期証券に投資を行います。本ファンド（円建て）は、担保付スワップ取引を通じて米国マーケット・ストラテジー円建て指数の損益を享受することに加えて、日本短期国債に投資を行います。

2 米国マーケット・ストラテジー指数は、イールドカーブの形状変化を収益の源泉とする「金利ダイナミックカーブ戦略」および債券市場における月末の買い圧力に着目した「債券月末ポジション戦略」によって構成されます。

金利ダイナミックカーブ戦略の特徴

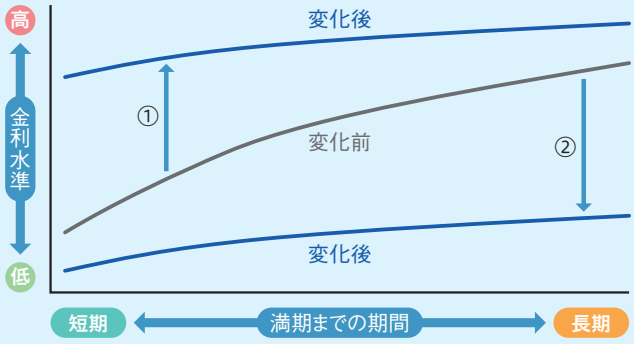
米ドル3ヵ月金利*1の推移を観察し、フラットナーポジションまたはスティープナーポジション（後述）のいずれかを構築することで、イールドカーブの形状の変化から収益を獲得することを目指します。

*1 米ドル3ヵ月金利は米ドル3ヵ月OISレートを指します。OISとは、“Overnight Index Swap”の略称で、固定金利と変動金利の翌日物レートを一定期間毎に交換する金利スワップの一種をいいます。一般的に、金融政策との連動性が高く将来の金融政策の織り込みをみる上で重要視されます。

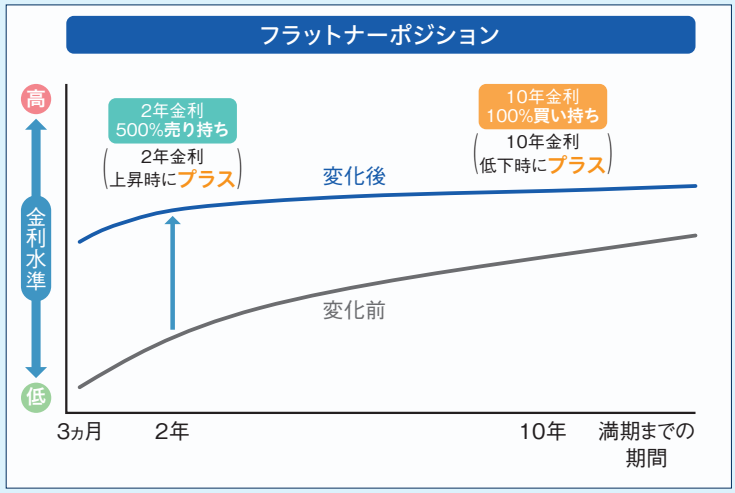
イールドカーブとは

横軸に満期までの期間を、縦軸に金利水準を用いて、満期までの各期間に対応する金利を示した曲線です。
満期までの期間が短い金利は金融政策等の影響が大きく、満期までの期間が長い金利はインフレ期待や財政状況の見通しが反映される傾向があるため、イールドカーブは経済情勢によって様々な形に変化します。

イールドカーブのフラットニング（イールドカーブの平坦化：長期金利と短期金利の差が縮小）



①	**短期金利の上昇によるフラットニング**	中央銀行による金融引締めが予想される環境でみられる傾向があります。
②	**長期金利の低下によるフラットニング**	インフレ期待の後退や財政健全化が予想される環境でみられる傾向があります。



※金利ダイナミックカーブ戦略での2年金利は2年物米ドル金利スワップ、10年金利は10年物米ドル金利スワップを指します。
※上図は長期金利の水準が短期金利よりも高い順イールドのイメージ図です。特徴は一般的な例示であり、実際とは異なる場合があります。

フラットナーポジションの具体例（上図①のパターン：2017年9月末～2017年12月末）

堅調な米国経済を背景に、金融引締めにより2年金利が大きく上昇し、イールドカーブはフラットニングしました。金利ダイナミックカーブ戦略ではフラットナーポジションを構築しており、リターンを獲得しました。

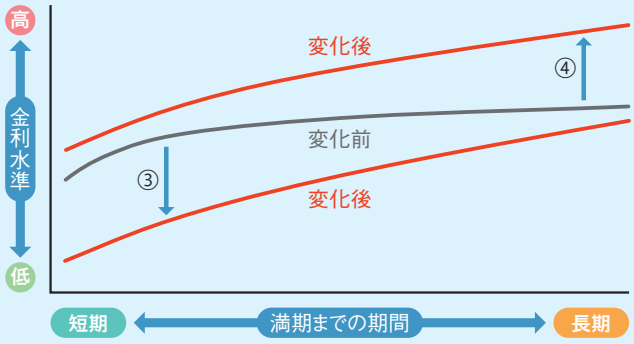
本期間のパフォーマンス

	金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）*2	米国債券
リターン	2.0%	0.4%
最大下落率	−1.0%	−0.7%

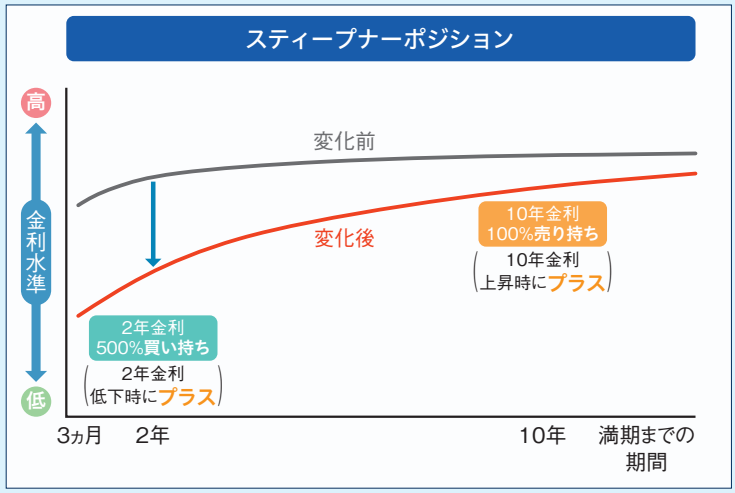
*2 金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）は、金利ダイナミックカーブ戦略に米ドル短期運用のリターンを加えて算出したシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド（以下、CFIMといいます。）によるシミュレーションです（2ページおよび3ページも同様）。リターンは、同期間の累積騰落率を表示（2ページも同様）。
（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

イールドカーブのスティープニング（イールドカーブの急峻化：長期金利と短期金利の差が拡大）



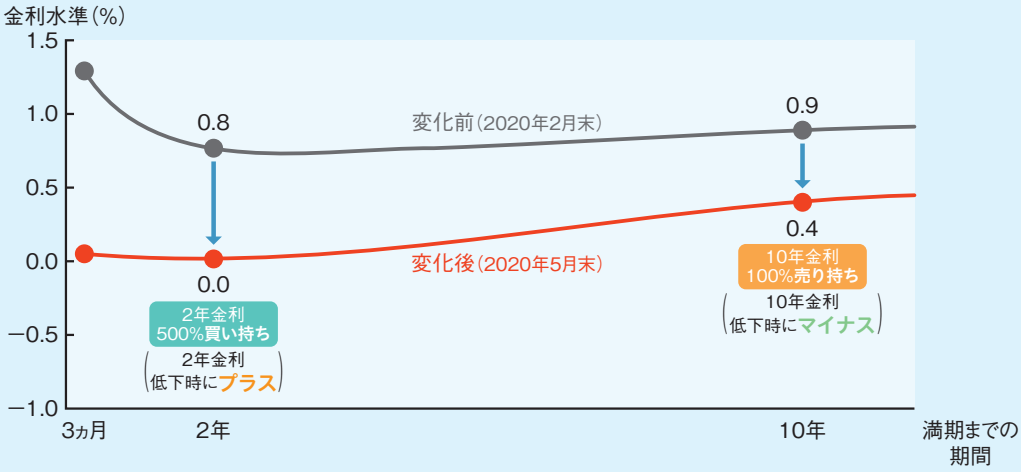
③	**短期金利の低下によるスティープニング**	中央銀行による金融緩和が期待される環境でみられる傾向があります。
④	**長期金利の上昇によるスティープニング**	財政不安やインフレ懸念が見込まれる環境でみられる傾向があります。



※上図は長期金利の水準が短期金利よりも高い順イールドのイメージ図です。特徴は一般的な例示であり、実際とは異なる場合があります。

スティープナーポジションの具体例（上図③のパターン：2020年2月末～2020年5月末）

新型コロナウイルスの影響で急速に悪化した米国経済を支えるための金融緩和により、2年金利が大きく低下し、イールドカーブはスティープニングしました。金利ダイナミックカーブ戦略ではスティープナーポジションを構築しており、リターンを獲得しました。

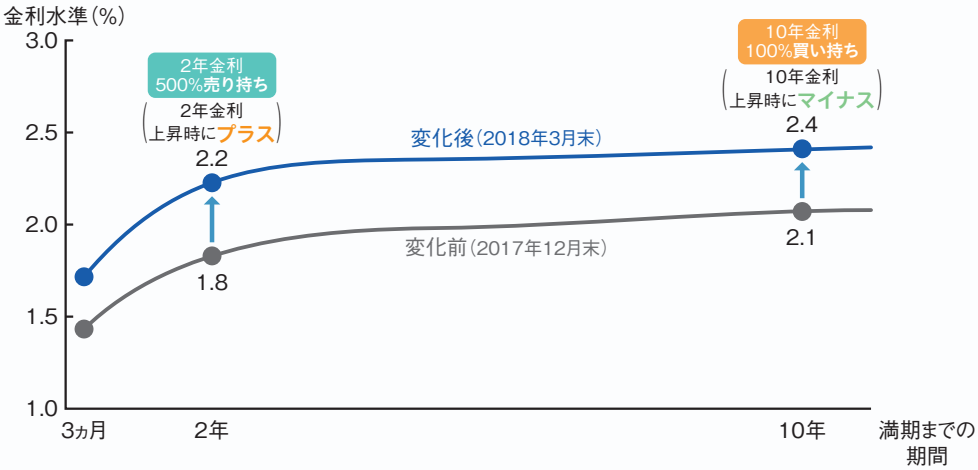


本期間のパフォーマンス

	金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）	米国債券
リターン	2.7%	1.6%
最大下落率	−2.4%	−6.3%

イールドカーブのパラレルシフト（2017年12月末～2018年3月末）

イールドカーブの形状を維持したまま短期金利と長期金利が同程度上昇（低下）した場合（パラレルシフト）において、金利ダイナミックカーブ戦略では2年金利と10年金利で反対のポジションを構築するため、金利変動の影響は限定的となりました。



本期間のパフォーマンス

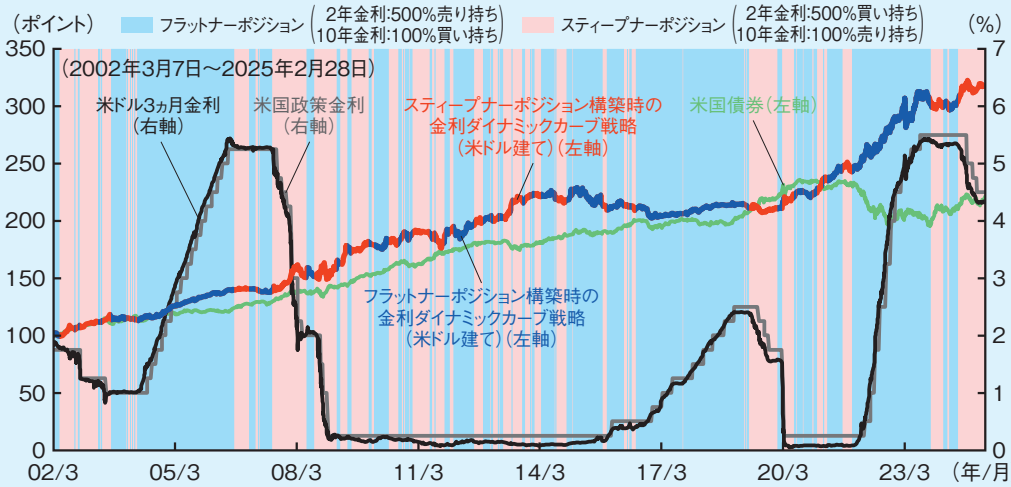
	金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）	米国債券
リターン	1.0%	−1.5%
最大下落率	−1.6%	−2.4%

（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）のポジションとパフォーマンスの推移

米ドル3ヵ月金利を用いて観測した直近のトレンドが上向きの場合はフラットナーポジション、下向きの場合はスティープナーポジションを構築します。



本期間のパフォーマンス

	金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）	米国債券
リターン（年率）	5.2%	3.5%
リスク（年率）	5.8%	4.2%
最大下落率	−11.8%	−18.4%

※各期間において金利ダイナミックカーブ戦略がどちらのポジションを構築していたかを示すCFIMによる過去のシミュレーションです。金利ダイナミックカーブ戦略（米ドル建て）および米国債券のパフォーマンスは2002年3月7日を100として指数化。
（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記の指数は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。

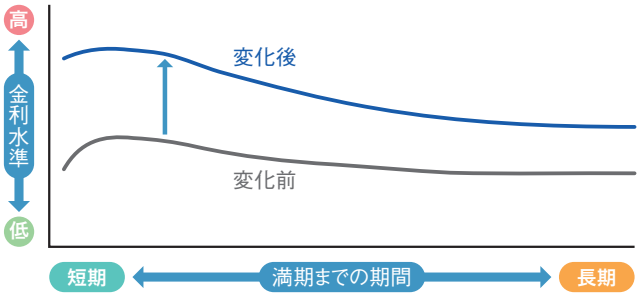
※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

逆イールド環境下のイールドカーブの変動

短期金利の水準が長期金利よりも高い状態のことを逆イールドといいます。逆イールドの場合、イールドカーブの変化後の形状が言葉のイメージとは逆になる場合があります。

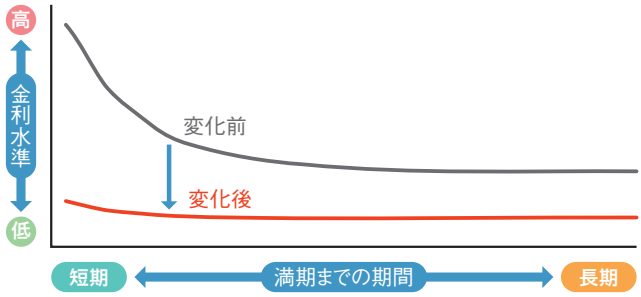
逆イールド時のフラットニング

逆イールドの状態から短期金利が上昇（フラットニング）した場合、イールドカーブの形状は急峻化しているようにみえます。



逆イールド時のスティープニング

逆イールドの状態から短期金利が低下（スティープニング）した場合、イールドカーブの形状は平坦化しているようにみえます。

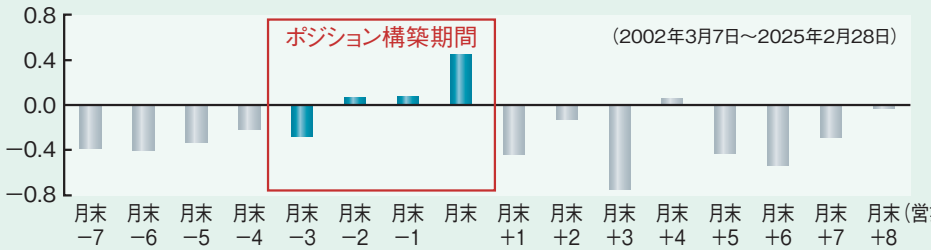


※上図はイメージ図です。短期金利の変動によるイールドカーブの形状の変化を表しており、実際とは異なる場合があります。

債券月末ポジション戦略の特徴

毎月月末にかけて米国10年債先物に集中的に投資します。各月の最終指数営業日の4営業日前の取引終了時点から買い持ちポジションとして75%ずつ投資量を増加させ、月末最終指数営業日の買い持ちポジションは300%となります。毎月の最終指数営業日の取引終了時点には全買い持ちポジションを解消し、投資量はゼロとなります。

米国10年債先物を1日保有した場合のシャープレシオ*



営業日	米国10年債先物ポジション
月末3営業日前	75%
月末2営業日前	150%
月末1営業日前	225%
月末最終営業日	300%
翌月第1営業日	0%
上記以外の営業日	0%

※各営業日の取引開始時点のポジション量です。

＊シャープレシオは、期間内の各指数営業日の累積騰落率を年率換算したリターンを、同期間の日次騰落率の標準偏差を年率換算したリスクで除して算出したもので、数値の大きい方が効率よく運用されていることを示します。

※各指数営業日の前営業日の取引終了時点で買い持ちポジションを構築した場合のCFIMによるシミュレーションです。

※上記のグラフにおける営業日は指数営業日をいいます。

※米国10年債先物のポジション量はインデックス・アロケーターの裁量によって変更される可能性があります。インデックス・アロケーターに関しては5ページをご参照ください。

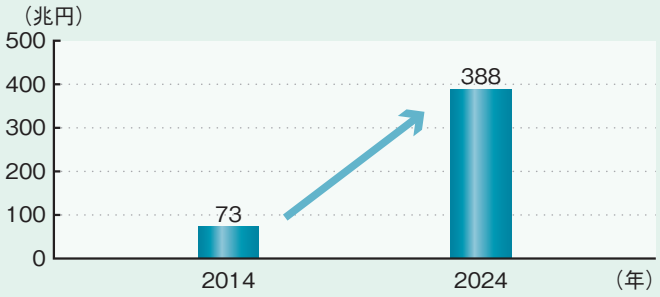
（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

債券インデックス・ファンド（ETF含む）の純資産総額の推移

債券インデックス・ファンドの純資産総額は2024年末時点で約388兆円であり、2014年末時点の約73兆円と比較して10年で約5倍に増加しました。
低コストを背景にした投資家の需要の高まりにより、債券インデックス・ファンドの純資産総額は更なる増加が見込まれます。

※データは2014年末時点、2024年末時点。各年末時点の純資産総額（米ドル建て）を同時点の為替レートで円換算。
（出所）Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

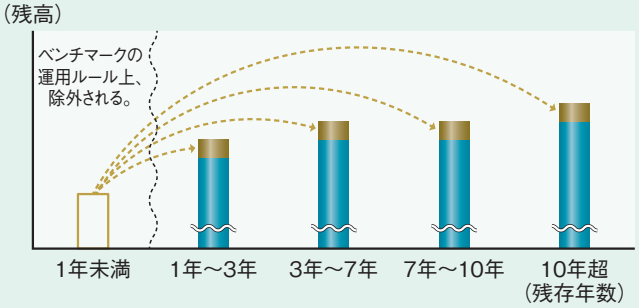


※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。

債券市場における「取引集中効果」

債券インデックス・ファンドのベンチマークとなる債券指数では、指数の設計上、月末の最終指数営業日にリバランスされるものが多いと考えられています。
時間の経過に伴いベンチマークから除外された債券の売却資金で、新たにベンチマークに採用された債券を購入するため、月末の最終指数営業日にかけて債券市場において買い圧力が高まる傾向が、継続的に観測されています。

債券指数の残存年数長期化のイメージ



※上記はイメージ図であり、将来の運用状況・成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

債券月末ポジション戦略（米ドル建て）*と米国債券のパフォーマンス推移

各月末4指数営業日にポジションを構築した債券月末ポジション戦略（米ドル建て）*は米国債券を上回るパフォーマンス推移となっています。2021年11月以降、インフレによる米国の金利上昇を懸念して、米国債券が下落に転じて以降も、着実にリターンを積み上げる結果となりました。

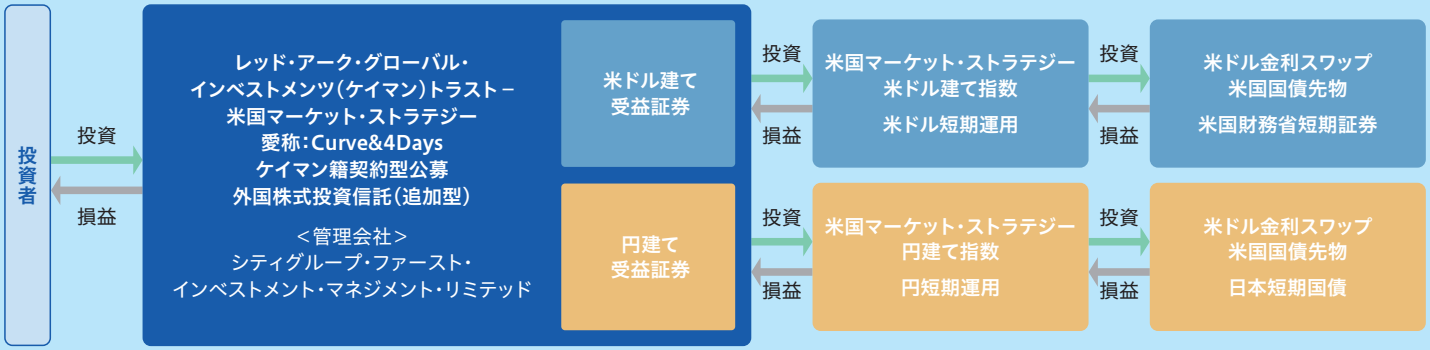
本期間のパフォーマンス

	債券月末ポジション戦略（米ドル建て）*	米国債券
リターン（年率）	5.9%	3.5%
リスク（年率）	6.1%	4.2%
最大下落率	−15.0%	−18.4%

*債券月末ポジション戦略（米ドル建て）は、債券月末ポジション戦略に米ドル短期運用のリターンを加えて算出したCFIMによるシミュレーションです。
（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。
※資金動向、市場動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの仕組み



本戦略*のパフォーマンス

*本ファンドの過去のシミュレーションを本戦略といいます。

本期間のパフォーマンス

	本戦略（米ドル建て）	本戦略（円建て）	米国債券
リターン（年率）	8.1%	6.2%	3.5%
リスク（年率）	8.3%	8.3%	4.2%
最大下落率	−9.9%	−11.4%	−18.4%

本戦略（米ドル建て）と米国債券の暦年リターン比較

	本戦略（米ドル建て）	米国債券		本戦略（米ドル建て）	米国債券
2002年	16.6%	9.6%	2014年	4.3%	6.0%
2003年	2.7%	4.1%	2015年	−3.8%	0.5%
2004年	8.0%	4.3%	2016年	0.9%	2.6%
2005年	10.1%	2.4%	2017年	0.0%	3.5%
2006年	3.6%	4.3%	2018年	3.4%	0.0%
2007年	7.6%	7.0%	2019年	2.5%	8.7%
2008年	10.9%	5.2%	2020年	15.5%	7.5%
2009年	22.8%	5.9%	2021年	5.3%	−1.5%
2010年	19.7%	6.5%	2022年	21.2%	−13.0%
2011年	5.6%	7.8%	2023年	4.7%	5.5%
2012年	15.2%	4.2%	2024年	5.7%	1.3%
2013年	7.1%	−2.0%	2025年	0.8%	2.7%

※本戦略（米ドル建て）のパフォーマンスは、米国マーケット・ストラテジー米ドル建て指数（ベース指数報酬0.2%控除後）および米ドル短期運用のリターンから、本ファンド（米ドル建て）の管理費用（年率1.18%）を控除して計算したCFIMによるシミュレーションです。本戦略（円建て）のパフォーマンスは、米国マーケット・ストラテジー円建て指数（ベース指数報酬0.2%控除後）および円短期運用のリターンから、本ファンド（円建て）の管理費用（年率1.185%）を控除して計算したCFIMによるシミュレーションです。リターンは本期間の累積騰落率を年率換算して計算。

※暦年リターン比較の表のうち、2003年～2024年は各年末時点における年間のリターンを表示。なお、2002年は2002年3月7日～2002年12月31日、2025年は2025年1月2日～2025年2月28日の累積リターンを表示。

（出所）CFIM、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は一定の前提条件に基づき過去のデータを基にCFIMが行ったシミュレーションの結果であり、本ファンドの運用実績ではありません。また本ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

インデックス・アロケーター 三井住友DSアセットマネジメント株式会社について

副管理会社である同社は本ファンドのインデックス・アロケーターとして、必要に応じてベース指数における金利ダイナミックカーブ戦略と債券月末ポジション戦略の構成割合および各構成戦略の運用手法の一部を見直す権限を有します。

本ファンドが想定するお客さま

- 中長期での資産形成を目的とされるお客さま
- 米国金利スワップおよび米国国債先物、短期証券への投資による収益の獲得を目指しており、元本毀損の可能性をご理解いただいた上でそのリスクを許容できるお客さま

本資料での指数、データ等については以下を指します。
金利ダイナミックカーブ戦略：米ドル10年物－2年物金利スワップ・ダイナミック・カーブ・アクティブ指数　米ドル短期運用：米国3ヵ月物国債インデックス
米国債券：Bloomberg米国総合債券インデックス（米ドル建て、トータルリターン）（当該インデックスは本ファンドの参考指数およびベンチマークではありません。）
米国政策金利：米フェデラルファンドレート誘導目標上限　米国10年債先物：米国10年国債先物トラッカー指数（取引費用控除後）
債券月末ポジション戦略：10年物米国財務省証券TOMアクティブ指数　円短期運用：日本短期国債インデックス
本資料では、米国マーケット・ストラテジー米ドル建て指数をベース指数、米国マーケット・ストラテジー円建て指数を円指数ということがあります。円指数は、適切な外国為替レートを用いてベース指数の指数レベルを米ドルから日本円に変換したものです。なお、ベース指数、金利ダイナミックカーブ戦略および債券月末ポジション戦略は、それぞれマネージド指数です。本指数とは、別途記載のない限り、文脈により、ベース指数、円指数、金利ダイナミックカーブ戦略および／または債券月末ポジション戦略をいいます。
本資料における各種パフォーマンスは日次データより算出しています。リターン（年率）は同期間の累積騰落率を年率換算、リスク（年率）は同期間の日次騰落率の標準偏差を年率換算しています。最大下落率は期間内の各日までの最大値を基準として、最大下落率を表示しています。

ファンドのリスク

投資リスク(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

リスク要因

受益証券の各クラスに帰属すべき受益証券1口当たり純資産価格は、本ファンドに組み入れられている有価証券、商品および他の資産の値動きならびに為替相場の変動等により上下します。**したがって、本ファンドの投資元本は保証されているものではなく、受益証券の各クラスに帰属すべき受益証券1口当たり純資産価格の下落により、投資元本を割り込むことがあり、受益証券のかかる関連するクラスの投資者が損失を被ることがあります。受益証券の各クラスに関して、受益証券のかかるクラスに帰属すべき運用または為替相場の変動等による損益は、すべて受益証券のかかるクラスの投資者の皆様に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。**以下は、網羅的なものではなく、本ファンドの主な投資リスクの要点だけを述べたものです。他のリスクを含む詳細は、請求目論見書をご参照ください。

<本ファンドに関連するリスク>

過去の実績

管理会社および/または副管理会社が運用する他の投資ファンドの過去の実績は、必ずしも本ファンドの将来の結果を予示するものではありません。

利益相反

シティグループ・グローバル・マーケッツ・リミテッドの関連会社(以下、それぞれを、「シティ・カウンターパーティー」といいます。)は、本ファンド、確定利付商品、スワップ取引および/または本指数(本項においては、ベース指数、円指数、金利ダイナミックカーブ戦略および債券月末ポジション戦略を指します。)に関して一定の職務を履行することがあります。管理会社および各シティ・カウンターパーティーは、シティグループの関連会社であり、それゆえ、互いに独立ではなく、各自が本ファンドに関して履行する職務は、潜在的な利益相反を生じさせることがあります。

<確定利付商品に関するリスク>

ソブリン債

本ファンドは、確定利付商品(国債によって構成される場合があります。)に投資することにより、ソブリン債に対するエクスポージャーを有します。政府発行体の商品に対するエクスポージャーは、多大な経済リスクおよび政治リスクを伴うことがあります。

金利変動

債券の価値は、金利変動に応じて上下することがあります。一般的に、金利が上昇すると、債券(確定利付商品を含みます。)の価値は下落する傾向にあります。反対に、金利が低下すると、債券の価値は上昇する傾向にあります。債券の価値の変動幅は、債券の満期までの期間の長さおよび発行条件を含む様々な要因に左右されます。

<スワップ取引および指数に関するリスク>

スワップ取引に関するリスク

ベース指数および円指数に対する想定上の投資エクスポージャーは、スワップ・カウンターパーティーとのスワップ取引を通じて入手されることになります。スワップ取引の価値は、原資産のパフォーマンス、すなわちベース指数または円指数の関連する方に大きく依存することになります。そのため、当該指数の取引にあてはまるリスクの多くは、スワップ取引への投資にもあてはまります。

原資産および市場に対する間接的なエクスポージャー

受益証券の対応するクラスに関するスワップ取引がエクスポージャーをもたらすことを目指すベース指数および円指数はそれぞれ、当該指数の適格な構成銘柄の加重パフォーマンスを反映することが意図されており、それゆえ、受益証券の関連するクラスの保有者は、間接的に適格な構成銘柄がトラックする資産および市場に対する投資のリスクの影響を受けることとなります。

戦略リスク

金利ダイナミックカーブ戦略:金利ダイナミックカーブ戦略は、スティープナーエクスポージャー(2年物米ドル金利スワップのロングポジションおよび10年物米ドル金利スワップのショートポジションで表示されます。)またはフラットナーエクスポージャー(2年物米ドル金利スワップのショートポジションおよび10年物米ドル金利スワップのロングポジションで表示されます。)のいずれか一方である、想定金利カーブ・エクスポージャーを提供することを目的としています。したがって、金利ダイナミックカーブ戦略のパフォーマンスは、金利ダイナミックカーブ戦略の基礎となる想定エクスポージャーに関連して金利のカーブが不利な方向に変動した場合(例えば、金利ダイナミックカーブ戦略が想定スティープナーエクスポージャーを提供している時に同時に短期金利が上昇し、長期金利が低下した場合)に悪影響を受けます。さらに、金利ダイナミックカーブ戦略の月次リバランスおよび固定比率の利用(該当する場合)により、金利ダイナミックカーブ戦略のパフォーマンスは、金利水準の大幅な変動にさらされる可能性があります。また、金利ダイナミックカーブ戦略は、関連する原金利スワップ契約に関連する市場リスクにもさらされます。

債券月末ポジション戦略:

債券月末ポジション戦略の戦略は、各暦月の末日に向けた期間に関連する国債先物市場で発生する可能性のある「取引集中効果」を収益化することを図るものです。「取引集中効果」は、当該市場で買い圧力が強まり、価格が上昇する際に発生します。債券月末ポジション戦略は一定の投資者の行動を収益化しようとしていますが、この投資者の行動は様々な理由で変化することがあります。また、債券月末ポジション戦略は、その構成指数に対するエクスポージャーを有するとき、市場動向の影響を受けることになります。

指数戦略が成功しない可能性

指数管理事務代行会社およびインデックス・アロケーターは、インデックス・アロケーション契約を締結しており、これに基づき、インデックス・アロケーターは、各マネージド指数の手法において使用される特定の本パラメータに関して、裁量に基づいて、決定を行い、指図を出すことができます。インデックス・アロケーターの決定が成功するとの保証はなく、また、そのような関連する指図が関連する本指数(本項においては、ベース指数、円指数、金利ダイナミックカーブ戦略および/または債券月末ポジション戦略を指します。)のパフォーマンスを向上させるとの保証もありません。

本指数のパフォーマンスは、インデックス・アロケーターの決定に依拠します

インデックス・アロケーターは、各マネージド指数の手法において使用される特定の本パラメータに関して、裁量に基づいて決定を行います。インデックス・アロケーターは、シティの関連会社ではなく、シティは、インデックス・アロケーターが下す決定について責任を一切負いません。インデックス・アロケーターは指数管理事務代行会社の代理人ではありません。インデックス・アロケーターは独立して業務を行っており、指数管理事務代行会社により、いかなる本指数(本項においては、ベース指数、金利ダイナミックカーブ戦略および/または債券月末ポジション戦略を指します。)または本ファンドの副顧問会社としても任命されていません。インデックス・アロケーターは、本指数の特定の本パラメータを修正する指図を出す権利を有しますが、これを行う義務はありません。

<一般的リスク>

為替リスク

受益証券は、クラス基準通貨建てです。これは、投資者の経済活動が主として関連するクラス基準通貨以外の通貨または通貨単位(円貨を含みます。)でなされる場合には、通貨の交換に関連する一定のリスクの存在を提示します。

カウンターパーティー・リスク

本ファンドは、契約条件をめぐる争い(善意かどうかは問いません。)のためまたは信用もしくは流動性の問題のために、契約条件に従って取引を決済しないカウンターパーティー(スワップ・カウンターパーティーを含みますが、これらに限られません。)にさらされる場合があり、これにより本ファンドが損失を被ることがあります。

お申込みメモ

（くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

設定日	2025年5月2日
申込期間	当初申込期間：2025年4月8日から2025年4月30日まで　継続申込開始日：2025年5月7日
信託期間	2157年10月21日または管理会社および受託会社が販売会社と協議の上合意したこれよりも早い日。
強制換金（買戻し）	受託会社は、管理会社および販売会社と協議の上、2035年５月２日以降に到来する買戻日において、受益証券クラスのすべての受益証券を強制的に買い戻すことができます。
繰上償還	投資信託説明書（交付目論見書）に記載の事項が発生した場合に、繰上償還をする可能性があります。
営業日	ロンドン、ニューヨーク、香港および東京の各地において商業銀行が営業を行っており、シカゴ・マーカンタイル取引所がその通常の立会を行っているそれぞれの日（土曜日、日曜日、祝日または12月24日を除きます。）ならびに／または管理会社が随時書面により指定するその他の日をいいます。ただし、いずれかの日に香港の銀行の営業時間が短縮された場合、当該日は営業日とはなりません（管理会社が別途決定する場合を除きます。）。
申込価格	当初申込期間：受益証券1口当たり10米ドル（米ドル建て受益証券）　受益証券1口当たり1,000円（円建て受益証券） 継続申込期間：当該取得日における当該受益証券のクラスに適用される受益証券1口当たり純資産価格 （注1）取得日とは、払込日の3営業日後（同日を含みます。）以降の各営業日、および／または管理会社が随時書面で指定するその他の日。 （注2）払込日とは、2025年5月2日または管理会社が受益証券のクラスについて決定するその他の日。
申込単位	当初最低申込み：3,000米ドル以上0.01米ドル単位（米ドル建て受益証券）、50万円以上1円単位（円建て受益証券） 追加申込み：100米ドル以上0.01米ドル単位（米ドル建て受益証券）、1万円以上１円単位（円建て受益証券）
買戻価格	関連する買戻日現在の受益証券の関連するクラスの受益証券1口当たり純資産価格
買戻単位	1口以上1,000分の1口単位（保有全受益証券売却の場合は1,000分の1口以上、1,000分の1口単位）
買戻代金の支払い	原則として、換金（買戻し）申込日の7営業日目（原則として買戻日の2営業日前が換金（買戻し）申込日となります。）
決算日	毎年12月31日

直接的にご負担いただく費用

購入（申込み）手数料

通貨単位	申込手数料
10万米ドル／1,000万円未満	2.20%（税込）
10万米ドル／1,000万円以上　50万米ドル／5,000万円未満	1.65%（税込）
50万米ドル／5,000万円以上　100万米ドル／1億円未満	1.10%（税込）
100万米ドル／1億円以上　300万米ドル／3億円未満	0.55%（税込）
300万米ドル／3億円以上	0.275%（税込）

※外貨建ての投資信託を円資金から該当通貨に交換のうえでお申込みの場合、別途、為替手数料が片道1円/往復2円（上限）かかります。

換金（買戻し）手数料	ありません	スイッチング手数料	ありません

投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

ファンドの管理報酬等

受益証券の関連するクラスに関する、受託会社、管理会社、副管理会社、管理事務代行会社、保管会社、代行協会員および販売会社に支払われる報酬の合計は、上限年率1.185%です。加えて、その他の費用等が本ファンドの信託財産から支払われ、スワップ取引および指数の手数料も投資者が間接的に負担します。

手数料等	報酬率（年率は純資産価額に対する割合）	本ファンドの関係会社
受託会社の報酬	年率0.01%（最低で年間15,000米ドル。四半期毎に後払い）	CIBC カリビアン・バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド（本ファンドの受託業務を行います。）
管理会社の報酬	年率0.22%（毎月後払い）	シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド（本ファンドの資産の運用管理ならびに受益証券の発行および買戻しの手配を行います。）
副管理会社の報酬	年率0.20%（毎月後払い）	三井住友DSアセットマネジメント株式会社（本ファンドの副管理業務を行います。）
管理事務代行会社の報酬	年率0.03%（払込日後最初の1年間年間48,000米ドル、その後は年間54,000米ドルの最低報酬）（毎月前払い）	エイペックス・ファンド・サービシズ（シンガポール）ピーティーイー・リミテッド（本ファンドの資産の管理事務代行業務を行います。）
保管会社の報酬	米ドル建て受益証券：年率0.01%（毎月後払い） 円建て受益証券：年率0.015%（毎月後払い）	香港支店を通じて行為するシティバンク・エヌ・エイ（本ファンドの資産の保管業務を行います。）
代行協会員の報酬	年率0.01%（毎月後払い）	シティグループ証券株式会社（日本における代行協会員業務を行います。）
販売会社の報酬	年率0.70%（毎月後払い）	株式会社ＳＭＢＣ信託銀行（日本における受益証券の販売・買戻業務を行います。）

手数料等	報酬率
スワップ取引に適用される報酬、指数想定費用およびベース指数報酬	①スワップ取引に適用される報酬 スワップ取引が解消される際に想定エクスポージャーの0.05% ②指数想定費用およびベース指数報酬 指数想定費用：関連する本指数（本項目においては、ベース指数、円指数、金利ダイナミックカーブ戦略および／または債券月末ポジション戦略を指します。）の指数水準は、想定費用等（想定費用、手数料、スプレッドまたはこれらと同様の用語で称されることがあります。）の控除を含む場合があります。 ベース指数報酬：年率0.2% 指数手数料、想定取引費用、複製の費用および個々の構成銘柄に伴う費用の詳細については、請求目論見書をご参照ください。 設立費用およびその他の費用（税金、銀行および証券業者の手数料、保険料、弁護士費用、監査費用ならびにマネー・ロンダリング防止遵守責任者、マネー・ロンダリング報告責任者およびマネー・ロンダリング報告副責任者それぞれに支払われる報酬など）は、本ファンドの信託財産から支払われ、間接的に投資者が負担することになります。

※手数料および費用等の合計額およびその上限額ならびにこれらの計算方法については、本ファンドおよびスワップ取引の運用状況や受益証券の保有期間等に応じて異なるため表示することができません。

受益証券のスイッチング

受益証券の異なるクラス（すなわち米ドル建てクラスおよび円建てクラス）間で、スイッチングを行うことができます。日本において、スイッチング請求に関しては、日本における販売会社において、スイッチング元クラスの受益証券の買戻請求と、スイッチング元クラスの受益証券の買戻しの日本における受渡日以降におけるスイッチング先クラスの受益証券の買付申込みを受益者より一括して受注され、個々に行う取引として処理されます。なお、インターネットでは、スイッチング手続は取り扱われません。販売会社はスイッチングの取扱いを停止する場合があります。

インターネット取引　可　　SMBC信託銀行・ホームページ　https://www.smbctb.co.jp

※税法が改正された場合等には、上記手数料率が変更される場合があります。

作成基準日：2025年2月末

■ 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込み

PRESTIA

株式会社SMBC信託銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第653号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、
一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 資料の作成、運用

三井住友DSアセットマネジメント　Be Active.

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

この資料の表紙に重要な注意事項を記載しております。必ずご覧ください。